

「優等学生」の特別措置と類型、および「優等学院」に対する 教育学部生の意識

北垣郁雄、李東林、藤井宣彰

(広島大学 高等教育研究開発センター)

1. はじめに 優秀な成績を修めたいわば優等学生に対する特別措置は、今後の高等教育の主要な課題の一つである。そこで、その特別措置に関し、国内外の事例を紹介し、それに基づいて類型を抽出する。また、優等学生に特化した企画である優等学院／プログラムを想定して、それに対する学生の意識調査を行い、反応の傾向を抽出する。

2. 特別措置の類型 「優等学生」に対する特別措置は、いくつかの事例を参照できる。

アメリカには、上位数%の優等学生を学内で特別に養成するための Honors College/Program を企画する大学が、600 近く存在する[1]。その養成と同時に、奨学金、教育設備、学生寮などさまざまな面で一般の学生より優遇する措置を採っている。一旦優等学生と認められても、それを維持し続けるには、相応の成績を維持する必要がある、その評価は厳格に感じられる。また、全体的に見て、優等コースの内容が先端科学技術に特化するという傾向が見られず、むしろ、批判的思考力、リーダーシップ性、ライティング能力、知の社会的還元精神[2]の涵養など、いわばメタレベルでの授業内容が少なくないという特徴がある。その他、カナダ、オランダの高等教育にも類似の優等企画が観察される。

一方、アジアでは、中国に類似の企画がある。例えば、浙江大学に竺可楨学院という2年制の優等学院がある。理・工・文の3分野を有し、上位8%の学生を受け入れている。また、実験班と称する試行的な優等企画も各所（北京理工大学の「本科教学実験班」、四川省の電子科技大学の「エリート計画実験班」など）で行っているようだ。さらに、道徳・学業・健康面で優れた学生を「三好学生」と称して選抜し、奨学金などの優遇措置を採ることもある。「優秀学生幹部」、「学業優秀学生」、「優秀卒業生」を選抜する制度もあるようだ。日本では、優秀な高大学生の進学で、飛び入学制度を採る大学がある。千葉大学、立命館大学、明治大学などである。また、業績ベースでの奨学金制度事例は多い。授業料減免は、広島大学や山口大学で実施されている。東北大学では、大学院レベルで、優秀な学生を選抜し、研究発表等の経済支援を開始している。

このように、大学や国によって、優等企画の内容が異なるものの、特別措置の必要性はある程度国際的に認知されているものと思われる。

以上をまとめると、「優等学生」に対する特別措置は、3つのタイプからなる類型として表現できよう。

- i) 養成型 (fostering) : 優等カリキュラム、優等寮
- ii) 報奨型 (reward) : 業績ベース奨学金、上位格の学位
- iii) 減免型 (exemption) : 飛び入学、授業料減免

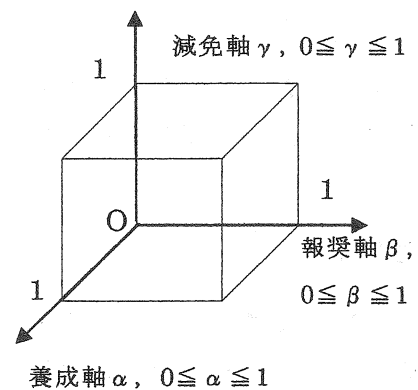


図1 学生の特別措置に関わる優等モデル

3. 「優等学院」に対する教育学部学生の意識 広島大学教育学部3年生24名に意識調査を行った。内容の一部を表1に示す。優秀な学生に対する特別措置として、これら12項目に示すような優等企画を行ったと仮定し、この企画に対する意見を、なるべく各項目に対する賛否が読み取れるようにとの条件を付して、自由記述でレポート作成してもらった。一方、別の広大生27名に、全レポートを読んでもらい、各レポートについてそれぞれの項目に対し、そこに読み取れる賛否の度合を評定してもらった、そして、1（消極的）～5（積極的）の5段階評定で回答してもらった。その後、回答データを0～1に規格化した。規格化データの平均値を各項目の末尾にかっこ書きで示す。この結果から、多くの項目の平均値が0.5以下であることがわかる。アスタリスクを付した数値は、「母集団の平均値が0.5である」という帰無仮説が $p < 0.05$ で棄却されたものである。12項目の中では、特に、「(項目11) 優良学生だけの特別な寮」のほか、「(項目1) 入試試験に基づいた優良査定」、「(項目12) 優良学生だけの同窓会」で評価点が低いことがわかる。

4. おわりに 教育学部生からは低い評価と相成ったが、他学部生にも調査し比較することが望まれよう。いずれにせよ、今後、優等企画を我が国の大学でどのように進めるかは、高等教育の国際化を実際的なものに近づけるために、必須の検討事項と思われる。

表1 アンケート項目

1.	入学試験の成績に基づいて、上位の数%を優良学生と認定する (*0.31)
2.	優良学生のための特別な教育組織を作る (*0.40)
3.	その教育組織には選別された優良教員が教育に当たる (0.41)
4.	学生は少人数で、希望する専門の優良教員の指導を受けることができる (0.48)
5.	その教育組織では、優良学生のための厳しい教育プログラムを準備する (*0.39)
6.	在籍年数は、一般学生と同様、原則4年とする (0.55)
7.	卒業では、一般学生とは異なる、いわば上位格の証書が渡される (0.51)
8.	途中で成績不良と評価された学生は、一般学生の教育プログラムに回される。空き定員には、一般学生から新たに募集する (0.50)
9.	奨学金の面では、優良学生は一般学生よりも優遇されている (0.57)
10.	優良学生の授業料は、一般学生と同じである (0.52)
11.	優良学生は、一般学生と同じ費用で、優良学生だけの特別な寮に入所できる (*0.25)
12.	優良学生は、卒業後、優良学生だけの同窓会に入会することができる (*0.32)

文献

- [1] Digby Joan, 2005, Thomson: Peterson's smart choice: Honors programs & colleges, Thomson Peterson's
 [2] 北垣郁雄、赤堀侃司編著, 2007, 『科学技術時代の教育』 ミネルヴァ書房。